



ユネスコとエスペラント（語）： 言語的権利に関する70年間の共同活動

2024年12月10日は、エスペラント運動にとって重要な日となります。というのは、それは、国際連合教育科学文化機関であるユネスコによるエスペラントの最初で最も重要な公式の認定となった「モンテビデオ決議」の70周年を記念する日であるからです。

1954年にウルグアイの首都で開催されたユネスコ総会で採択されたこの決議では、エスペラントの使用の発展に注意を向けるようにユネスコ事務局長に勧告し、エスペラント運動の成果が「ユネスコの目標と理想に合致している」ということを認めました。

この決議は、世界エスペラント協会（UEA）および他のエスペラント団体による長期にわたる粘り強い活動の結果であり、エスペラントを支持する請願書を集めて国連に提出しました。約90万人の個人と会員数が延べ1,500万人を超える約500の団体の代表者が署名しました。

1950年に国連に送られたこの請願書は、世界の言語問題と、その正当な解決策としてエスペラントが果たせる役割について国連に調査するよう求めていました。しかし、この請願書は国連みずからは扱わず、ユネスコに回付し検討しました。

1954年のユネスコ総会では、エスペラント運動からのオブザーバーを務めたイヴォ・ラペンナは、この問題の成功にあまり期待していませんでしたが、地元のエスペラントイスト（エスペラント主義者）たちが企画したエスペラントに関する展示会にメキシコ代表団が感銘を受けて状況は変わりました。そして、UEAからは、加盟国に対し、加盟国が最も適切と考えるエスペラントの使用を奨励する決議案を提案しました。

多くの議論と妥協を経て、決議案は最終的に1954年12月10日金曜日の午後に、ユネスコ総会の本会議で採択されましたが、その内容はそれほど過激なものではなく、加盟国への勧告は含まれていませんでした。しかし、この決議はエスペラント運動にとって大きな勝利となり、エスペラント運動はこの方法でユネスコにおける公式諮問の地位を獲得しました。

それ以来、UEAとユネスコの関係は発展を続け、ユネスコは何度もエスペラントとその文化的、教育的貢献への関心と評価を明らかにしてきました。最も重要な例として、1977年にレイキャビクで開催された世界エスペラント大会へのユネスコ事務局長アマドゥ・マクタル

ムボウ氏の訪問があげられます。その後、1985年には、ユネスコは、エスペラント100周年を記念して、エスペラントに関する2度目の決議を採択しました。これは、これまでの認識を深めて、言語の問題やエスペラントに関する学習プログラムを大学や諸学校で導入するように加盟国に勧告しました。

モンテビデオ決議70周年は、文化、教育、科学を通じて世界に平和を築くというユネスコとエスペラントの共通の目標と理想を表すこの文書の歴史と意義を再確認する良

い機会となります。私たちは、2024年12月10日に、1954年に総会が開催されたモンテビデオの国会議事堂で70周年を祝います。